

パネルディスカッション5

「消化管癌の最新の免疫治療の現状と課題」

司会 高山 哲治（徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学）

加藤 健（国立がん研究センター中央病院頭頸部・食道内科）

近年免疫チェックポイント阻害剤が消化管癌の日常診療で用いられるようになった。胃癌や食道癌では、初回化学療法としてニボルマブ/ペムブロリズマブ併用レジメンが標準治療となり、食道癌ではニボルマブ+イピリムマブの免疫チェックポイント阻害剤2剤併用も選択可能となった。一方、大腸癌では MSI-High と限られた集団に有効性が確認されている。消化管癌に免疫治療を行うにあたり、患者選択や副作用マネジメントなどの諸課題について討論したい。